

久保田るり子の朝鮮半島ウォッチ

韓国左派政権がおとしめた「朝鮮戦争の英雄」 尹政権で復活

2023/7/29 01:00

3年前に99歳で逝去した朝鮮戦争の「伝説の英雄」、白善燁（ペク・ソニョプ）将軍の名誉回復が尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権下で始まった。左派の盧武鉉（ノ・ムヒョン）、文在寅（ムン・ジェイン）両政権に「親日派」とおとしめられたが、7月27日の朝鮮戦争休戦70年に合わせて、激戦の戦跡に銅像が建立された。顕彰のための財団も発足し、救国の英雄としての再評価とその遺産を残す作業に入っている。米韓同盟の象徴ともいわれる白氏の復権は、尹政権の進める韓国社会の左傾化是正を代表する事例ともいえそうだ。

再評価と名誉回復

退役軍人や国家有功者らに関する政策を担当する国家報勲省は24日、白氏の埋葬記録に記された「親日反民族行為者」の記述を削除した。報勲省は削除について「不純な意図をもって白氏を侮辱し、名誉をおとしめようとした疑い」があったとした。

白氏は日本統治時代に満州国軍に任官し、中国共産党の抗日ゲリラを討伐した。韓国左派政権はこれを「独立運動家を弾圧した」と決めつけ、盧政権時に白氏を「売国奴」と同義語の「親日派」と糾弾した。文政権はこれを基に埋葬記録に「親日反民族行為者」と記載した。文政権は2020年7月に白氏が99歳で逝去した際も冷遇し、弔問所も設置しなかった。怒った有志の市民らがソウル市内の中心部に設けた弔問所には、4日間で10万人が訪れた。

尹政権の白氏に対する名誉回復の動きは昨夏の二周忌の追悼式から始まり、今年が米韓同盟条約の締結70周年（10月1日）と朝鮮戦争休戦の70年（7月27日）に当たることから急速に進んでいる。白氏の功績をたたえる「白善燁将軍記念財団」が6月末に発足し、初代理事長に金寛鎮（キム・グァンジン）元国防相が就任。7月上旬には白氏の銅像が戦跡地に建立されて式典が開かれた。財団では業績の再評価や資料収集、教育事業などを行っていく。

また、国家報勲省は米韓連合同司令部と共同で、「米韓十大英雄」にマッカーサー国連軍司令官などと並んで白氏を選定した。尹大統領が米韓首脳会談で訪米したのに合わせ、4月から5月にかけて米ニューヨークのタイムズスクエアの大型電光掲示板で10人の写真や映像を紹介した。

「私が後退したら撃て」

白氏の不屈の精神を伝えているのは、朝鮮戦争最大の激戦とされる1950年8月13日から30日までの「多富洞（タブドン）の戦い」だ。北朝鮮軍は6月25日未明の奇襲で南進し、わずか3日間で首都ソウルを陥落させた。その後も破竹の勢いで南下し、5週間で釜山（プサン）近郊に到達。韓国は領土の約9割を席卷され、米韓両軍は追い詰められた。多富洞の戦いはこの勢いを止める最終防衛戦だった。

当時29歳の准将で韓国陸軍第1師団長だった白氏は、弾薬不足で恐怖におびえる兵士らに「私が先頭に立つ。貴官らは私に続け。私が退くことがあれば誰でも私を撃て」と決死の突撃を指揮した。戦線は韓国陸軍本部と米陸軍第8軍本部のある大邱（テグ）に迫っており、突破されれば釜山を失い米韓両軍は敗走するところだった。だが、両軍はこの戦いで陣地を奪還して形勢を逆転。その勢いで9月15日からの米軍（国連軍）による仁川（インチョン）上陸作戦を可能にした。ビンセント・ブルックス元米韓連合軍司令官は白氏の一周忌に寄せて、「多富洞での白將軍の勇猛な抵抗と闘志が米第8軍に決意を抱かせた」と述べている。

白氏は米軍関係者から「ホワイトイー」の愛称で呼ばれていた。その死に際し、ハリー・ハリス駐韓米大使（当時）が弔問だけでなく埋葬にも同行し、ロバート・エイブラムス在韓米軍司令官（同）は「白將軍は国家の宝だった」と声明を出した。米国家安全保障会議（NSC）も「韓国が今日の繁栄した民主主義国となったのは白將軍のレガシー（遺産）である」と悼んだ。米軍は今も主要な軍事学校で、「多富洞の戦い」などを詳述している白氏の回顧録を教材に使っているという。

左派の誹謗と妨害

尹政権下でようやく「復活」した形の白氏だが、親北政権だった盧、文両政権下での誹謗（ひぼう）や圧力は露骨なものだった。

「親日派の清算」を行うため大統領直属の「親日反民族行為真相究明委員会」を設置した盧政権（03～08年）は、白氏を約1000人に及ぶ「親日反民族行為者」に認定した。これを知った白將軍は「私は何のために闘ったのか」と漏らした。

文政権（17～22年）は米韓同盟の堅持と日韓関係を重視する白氏の功績を認めなかった。文大統領は白氏の告別式に参加せず、青瓦台（大統領府）からは国家安保室の第1次長だけが参列した。文氏は大統領名義の弔花を贈っただけで、追悼メッセージさえ出さなかった。そして葬儀を国葬とせず陸軍葬とした。

韓国には国立墓地「ソウル顕忠院」があり、歴代大統領や国家功労者、朝鮮戦争の戦死者らが埋葬されているが、文政権は白氏の埋葬を「場所がない」との理由で事実上、拒否した。保守派は反発したが結局、埋葬場所は地方の分院「大田（テジョン）顕忠院」となり、遺族もこれを了承した。しかし、埋葬式に訪れたのは駐韓米大使や在韓米軍司令官らだけで、文政権の幹部の姿はなかった。墓地の周辺では左派団体が「親日反民族行為者の埋葬反対！」

と叫ぶ異様な雰囲気となった。

白氏は朝鮮戦争の後、陸軍総参謀総長や合同参謀会議議長などを歴任。軍を退官してからは朴正熙（パク・チョンヒ）政権で台湾やフランス、カナダの大使などを務めた。内政では交通相を務めていた1970年、日航機の「よど号ハイジャック事件」が発生。日航機はソウルに一度、着陸した。「われわれは日本赤軍。平壤に行きたい」という犯人たちに英語は通じなかった。そこで「日本語で交渉しよう」と提案し、交渉に当たったのが白氏だった。

日本の防衛省・自衛隊との交流も深かった。白氏の講演を聞いた元自衛隊幹部は、その教訓の核心が「自らの国は自ら身命を賭（と）して守る気概を行動で示す」ことだったと話している。

（編集委員）

産経新聞 2023. 7. 29掲載 ネット版「久保田るり子の朝鮮半島ウオッチ」